

NFC所蔵作品選集

FILMS MoMAK

2014.08 — 10

NFC所蔵作品選集

FILMS

2014 ⁰⁸ ₁₀ ^{Aug.} _{Oct.}

Information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃 (開場は13:30)

8月8日(金)のみ19:00- (開場は17:45)
上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金 | 1プログラム 500円 (当日券のみ)

*本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場 | 京都国立近代美術館 1階講堂

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。
当日13:30(8月8日のみ17:45)より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。
会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 | 富田美香(立命館大学映像学部教授)
川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)

Exhibition

同時開催中の展覧会

うるしの近代 — 京都、「工芸」前夜から

会期 | 2014年7月19日(土) — 8月24日(日)

ホイスラー展

会期 | 2014年9月13日(土) — 11月16日(日)



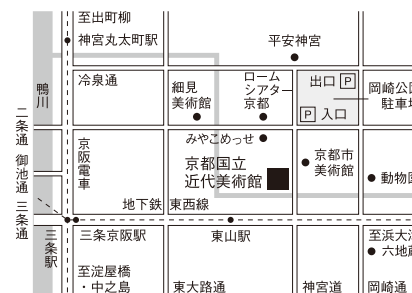
オセロ | 写真協力 公益財団法人川喜多記念映画文化財団

access

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL 075 761 4111

www.momak.go.jp



- ・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行)銀閣寺行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三條駅から市バス5番 岩倉行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四條駅から市バス46番 平安神宮行 [岡崎公園 美術館・平安神宮前]下車すぐ
- ・市バス他系統「東山二条・岡崎公園口」または [岡崎公園 ロームシアタールーム]京都・みよこめっせ前]下車徒歩約5分
- ・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MoMAK F Column

◀ ◯ ◯ ▶ 早川雪洲の時代

無声映画黄金期のハリウッドに、エキゾチシズムとセックス・アピールで一世を風靡した二人の男優がいる。1920年代のセックス・シンボルと称されたルドルフ・ヴァレンティノと、彼より早くトップスターの座に君臨した「セシュー・ハヤカワ(早川雪洲)」である。

早川雪洲は、『チート』(1915年、セシル・B・デミル)において、アメリカ社交界では寵児の紳士でありながら、日本趣味の自宅では白人女性の肌に乗る自分の所有物として焼き印を押すという、二面性をもった東洋人の悪役を演じて、一躍スターダムに駆け上った。特に、彼の端正な顔立ちとクールな演技、デミルならではの豪華な装飾、光と影を照明で際立たせた白黒映像の美、が存分に発揮された自室のシーンは、今見ても凄艶で、魅惑的である。

雪洲がアメリカで活躍した背景には、19世紀末からカリフォルニアへ渡った日系移民をめぐる社会状況と、ジャポニズムが大きな要因としてあった。『チート』を含め、今回上映する三作にもその特徴がよく表れている。

『颱風』と『火の海』の製作会社は、ハリウッドの草創期に広大な撮影所村を作り、プロデューサー・システムや撮影台本を定着させ、アメリカ映画を牽引していったトーマス・H・インスが、東洋趣味の短編映画製作を目的に設立したオリエンタル・プロダクションである。東洋趣味や日系移民の社会が市場として成立した証であり、プロットや人物像のいわゆる「オリエンタリズム」も明解だ。主演女優として人気を博していた青木鶴子は、川上音二郎・貞奴の姪にあたる。貞奴は、1900年のパリ万博での公演を機に、ヨーロッパの社交界で「ヤッコ服」と呼ばれるキモノ風ドレスやグラン

の香水「ヤッコ」の流行をおこし、同じ時期に各地で上演されていたオペラ『蝶々夫人』とあいまって、それまで美術工芸の分野であったジャポニズムを、女性のファッションに広げる原動力となった女優である。アメリカでは、デパートのカatalogでキモノ風ガウンや室内着が販売されるなど(深井晃子『ジャポニズム インファッションー 海を渡ったキモノ』、見玉実英『アメリカのジャポニズム』)、流行は中流階級まで浸透していた。1910年代半ばは、アメリカの映画業界が映画館を豪華にし、観客層を中流階級以上にあげた時期であり、エキゾチシズムは館の内装にも作品にも反映されている。

『チート』の後、雪洲は自分のプロダクション(Haworth Pictures Corp.)を立ち上げ、日系社

会からも日本からも国辱、国賊と非難されないような作品の制作を心掛けた。1900年前後のアメリカでは、ラフカディオ・ハーンや女性作家を含めて日本を題材にした小説が多数出版されており、狩野派の画家を主人公にしたメアリー・フェノロサの『蚊龍を描く人』はその一本である。

今回の上映作品では、インス式の撮影台本を日本映画に導入した映画監督のトーマス栗原と、松竹キネマの草創期をカメラマンとして支えたヘンリー小谷の俳優時代を確認することができる。彼らが活躍した無声映画の時代に、日本において映画を鑑賞するという行為は、視覚芸術の無声映画と、弁士と伴奏音楽による話芸と音楽とが融合した、ライブ・パフォーマンスを味わうことでもあった。今回の上映でも、澤登翠弁士、湯浅ジョウイチ氏による、一回性の映画体験を堪能されたい。

富田美香(立命館大学映像学部教授)